

せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福社会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

平成26年 7月 第161号 年間購読料1,000円(1部100円)

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

入学式一身をもって社会的使命を教えるチャンスに！

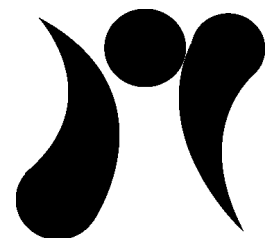
埼玉県で、新入生の担任教諭4人が自校の入学式を欠席して、自分の子供の入学式に出席した、と報じられて話題になっています。いずれも事前に校長に相談して有給休暇を認められており、手続き上は問題が無かった。現場の先生たちの意見も様々で、『娘の高校入学式より勤務校の式への出席を私は優先した。教師の誇りや責任感について子どもに語れば、薄情とは思われないはずだ』の一方で『家庭と仕事のどちらをとるかは価値観の問題。生徒や保護者に後で事情を説明して理解を得る努力はすべきだが、他人がとやかく言うのもおかしいのでは』の意見もある。インターネットの意識調査では35万人の反応があり、『問題だと思わない』が48%、『問題だと思う』が44%で、ほぼ拮抗している、という。(4/23朝日新聞夕刊)

教師を聖職と見るか、一般的な職業・労働の一つと捉えるのか、昔から繰り返されて来た議論ですが、世に職業として存在するものは全て社会に必要であり、何れも尊く「聖職」と考えたいと思います。そして、この記事を読んで頭に浮かんだのが、『歌舞伎役者は親の死に目に会うことよりも、舞台を優先して務める』ということでした。

歌舞伎の創生期には『河原乞食』と呼ばれて蔑みの対象であった歌舞伎役者が、数百年を経た現在では多くの人間国宝を輩出し、『歌舞伎』は世界に誇る日本を代表する芸術となっています。この数百年間を一貫して貫いたのが『親の死に目より舞台を優先』する姿勢であり、『役者の誇り』『舞台に立つ矜持』を親から子へ、子から孫へと引継ぎ、歴史と伝統を続けてきた結果が、現在の歌舞伎への評価につながっているのだと思います。「死と向き合う親」を想いながら務める舞台の上で、演じる芸に深さや奥行きが創り出され、それが観客に伝わって行くのではないかと感じます。

観客に向けた社会的使命感に裏打ちされた親と子の姿勢は、全ての職業に通じるようにも思います。教育に携る者にとって入学式は、自らが就く職業の社会的な使命を、我が子にも教え子にも同時に教える絶好のチャンスであったように思い、非常に残念に感じました。自然の一員としての本能や、社会の一員としての使命感などは、単に知識として教えるのでは伝わり難く、

(次ページへつづく)



(前ページのつづき)

身に染みる体験として伝える機会が重要であるように感じます。

老いて人生を締め括る高齢者の介護に携る我々にとっては日々の業務が、自然の摂理に添って尽きる命に触れ、お年寄りの生きる姿勢に学ぶ絶好の機会であるように思い、身に染みる体験をご家族やご友人と共有できるチャンスが無駄にせぬよう、我が身を振り返って教訓としたい、と強く感じた記事でした。

せいりょう園 渋谷 哲

介護の現場から・・・

グループホーム介護職員 小原あゆみ (介護福祉士)

せいりょう園では、調理職員→介護職員へと異動した職員が何人も居ます。
そんな職員からの発信です。

私が、せいりょう園に勤めるようになり 18 年が経ちました。

最初は厨房職員として約 14 年。その後、介護職員としてグループホームで働き、4 年目となります。

厨房で仕事を始めた当初は「多人数の料理なんて作れるだろうか？」という不安や『美味しい』と言って貰える料理が出来るだろうか？という不安がありました。毎日仕事をしていくうえで、先輩厨房職員達からの指導もあり、少しずつ不安が解消されていくのを感じました。

10 年程過ぎた頃から、せいりょう園内で「調理と介護の一体化」という話が出始めました。今までは入居者とは隔離状態でもあった厨房から出て、入居者が日常生活を過ごすホールに簡単なキッチンを設け、皆さんの目の前で食事作りを行うと、「見られている」という緊張感がありますが、「おいしそうやね。」「いい匂いやね。」「美味しかったよ。」と直接入居者からの声が聞けるという喜びや嬉しさを感じるようになりました。

その後、グループホームへ異動となり、当初は「食事作りは仕事だからいいとして、何で掃除や汚れ物の片付けばかりしないといけないんだろう・・・こんなことをするために仕事に来てるんじゃないのに・・・。」という不満がありました。今、振り返ると凄くおこがましい考え方だったと思います。

それでも毎日入居者の生活に触れていくうちに、認知症の皆さんが「子供の為にご飯を作りて帰らないといけない。」や「主人が帰ってくるから鍵を開けないといけない。」など個々に想いや考えがあって行動しているのだと実感しました。この時、私の中で「調理だけでなく、他に自分が手伝えることはないだろうか？介護という仕事が自分にも出来ないだろうか？」と思うようになりました。

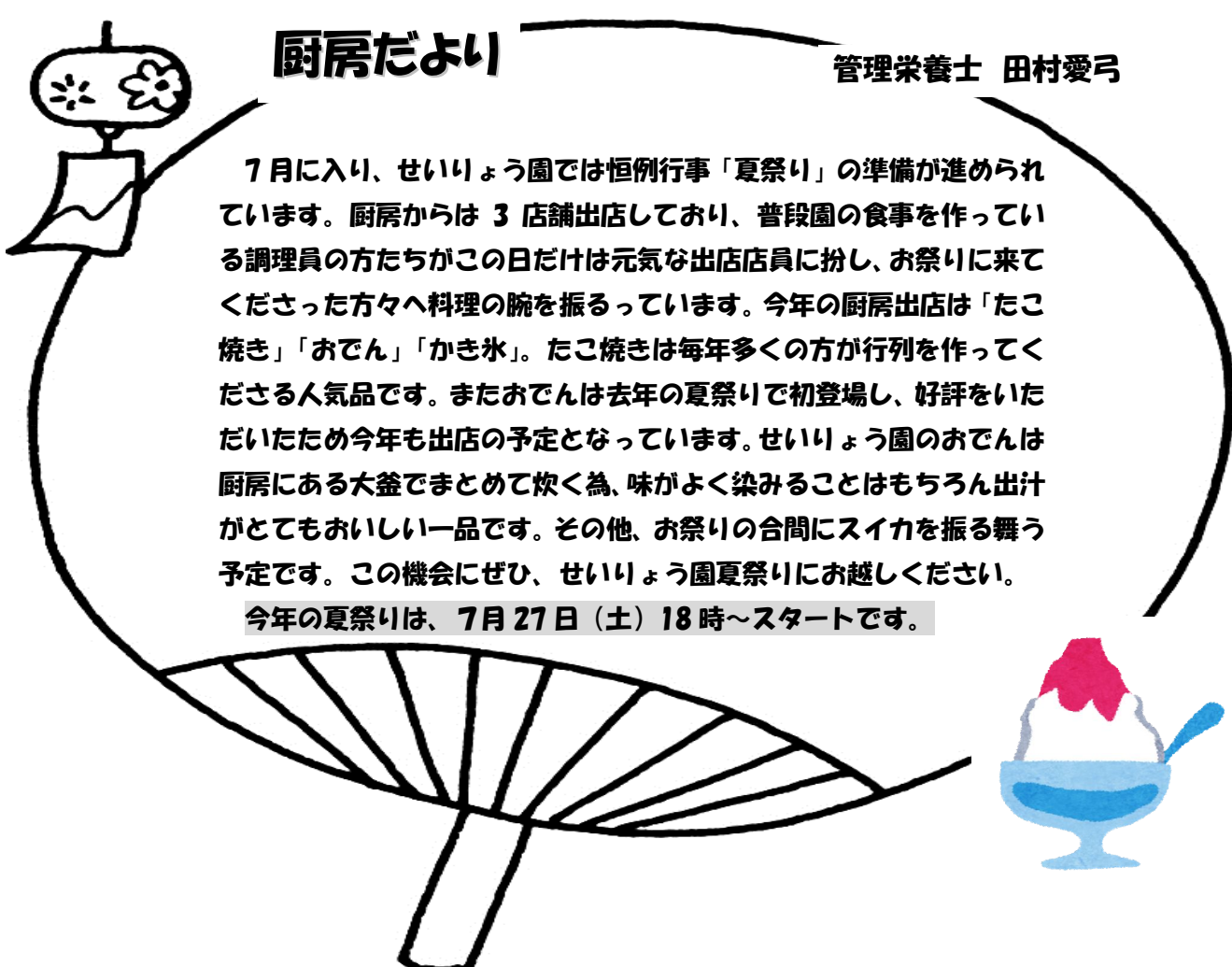
思い切って介護職という仕事を始めると、入居者に対してどう対応すればいいのか？色々悩むばかりで、介護職を続けていく事に不安がありました。しかし、先輩介護職員達の丁寧な指導もあって何とか乗り越えて頑張っていく事が出来ました。

介護職となって2年ほど経った頃、初めて看取りを経験しました。Dさんという入居者で、老化によって食事が喉を通りにくくなり、食べられない状態となって亡くなられました。亡くなられた際、Dさんと最期に交わした会話や息を引き取る寸前の表情は、今でもはっきりと覚えています。初めて、人の死を身近に経験したこともあり「どうしてもっとしっかり見守ることが出来なかったのだろう。」や「もっと早くに状態が悪い事に気づいてあげることが出来れば…」という後悔ばかりの念が強くなり「もう辞めよう。」と感情的になってしまいました。そんな状態の時に先輩介護職員より「誰のせいでもない。DさんはDさんらしく最期まで生きてきた。」と言われた事で立ち直ることが出来ました。その後も何度か看取りを経験しました。その度に落ち込んだり、これで良かったのか？と悩むこともありますが、日々人生勉強だと思えます。

介護職員となって4年経過しました。今年は介護福祉士の資格を取得することが出来ました。今後も入居者の方々が、その人らしい生活を送り、その人らしく人生を締め括るお手伝いを続けていけるように努めていきたいと思えます。

厨房だよ

管理栄養士 田村愛弓



7月に入り、せいりょう園では恒例行事「夏祭り」の準備が進められています。厨房からは3店舗出店しており、普段園の食事を作っている調理員の方たちがこの日だけは元気な出店店員に扮し、お祭りに来てくださった方々へ料理の腕を振っています。今年の厨房出店は「たこ焼き」「おでん」「かき氷」。たこ焼きは毎年多くの方が行列を作ってくださいる人気品です。またおでんは去年の夏祭りで初登場し、好評をいただいたため今年も出店の予定となっています。せいりょう園のおでんは厨房にある大釜でまとめて炊く為、味がよく染みることはもちろん出汁がとてもおいしい一品です。その他、お祭りの合間にスイカを振る舞う予定です。この機会にぜひ、せいりょう園夏祭りにお越しください。

今年の夏祭りは、7月27日(土)18時~スタートです。



【せいりょう園空き情報 平成26年7月16日現在】

- ① ケアハウス：1室 (バス・トイレ・キッチン付24㎡)
- ② グループホーム：空きなし
- ③ グループホームまどか：空きなし
- ④ サービス付き高齢者向け住宅「リバティかこがわ」：3室
- ⑤ サービス付き高齢者向け住宅「自愛の家さくら」：空きあり

【問合せ先】 せいりょう園 TEL(079)421-7156/(079)424-3433

介護についてみんなで語ろう会（6月27日）



テーマ「介護保険で利用できる施設」

せいりょう園老人介護支援センター

社会福祉士 吉田 知一

「介護保険で利用できる施設」と書くと語弊があって、正しくは介護保険が適用され、自己負担が1割で入所することができる施設になります。また、この度は、施設ではなく、サービス付き高齢者向け住宅などの在宅サービスを利用しながら住むことが出来る住まいについても皆様にご紹介しました。今回の機関紙では、あまり知られていない施設の事情について述べたいと思います。

○在宅サービス費と施設サービス費は仕組みが違う！？

実はあまり知られていないのが、在宅サービスと施設サービスではサービス費の仕組みに違いがあるということです。在宅サービスでは、ヘルパーを何時間利用するか、もしくはデイサービスを何回、何時間利用するかなど、使う方の必要に応じて時間や回数で費用が合算されます。つまりサービスを利用すればするほど費用は高額になっていくのです。しかし、施設サービス費の場合は、1日単位で費用が設定されており、予めひと月にかかる費用はおおよそ検討がつきます。また、在宅サービスでは、ひと月ごとに支給限度額というものが介護度別に設定されており、その限度額内であれば、保険適用され1割の自己負担でサービスを利用できることとなります。この限度額を超えてサービスを利用する場合は、保険適用外となり自費の10割負担となります。

施設サービス費の他には、お部屋代、お食費代が発生します。この内、介護保険が適用になり1割負担になるのは施設サービス費のみとなります。



※日常生活費の絵にあるシャンプーやリンスは施設が用意しているところもあります。

施設サービス費の1割+食費+居住費+日常生活費を合わせて自己負担する金額になります。これ以外にかかる費用としてはドクターの往診代やお薬代が別途必要になります。これもあまり知られていませんが、特養や老健などの居住施設では、洗濯代やオムツ代は介護費用に含まれています。ただし、グループホームやケアハウスなどの在宅サービスを主に利用し生活している場合は、オムツやシャンプーや石鹸などの消耗品は自費扱いになりますのでお気をつけください。

○グループホームは施設ではなく住宅！？

実はグループホームは、介護保険上で住宅とみなされており、そこで提供されるサービスも、在宅サービスに位置付けられているのです。もともとはイギリスで精神障害者の方が少人数で共同生活できる場として提唱され、1980年代にスウェーデンで、認知症の高齢者向けに民家を借りて始めたの

がきっかけだそうです。しかしながら、解釈としては、特養と同じように建物の中には常時介護職員がおり、施設介護と同じような考え方も出来ます。

○ケアハウスは住宅ではなく施設！？

ケアハウスは、全室個室で見た目にはマンションのような住宅に見えます。しかし、実際には老人福祉法上の施設という位置づけになります。正式には「軽費老人ホームC型」といって、食事の提供を行い、在宅サービスを利用しながら生活ができる場所、となっています。特養と同じく、所得によって事務費(部屋代に相当)が段階的に軽減されるなど、一般の住宅とは違った措置がとられています。



○看取り介護加算をとっていない特養がある！？

特養は終身で最期まで看てくれているから安心である、というイメージがあります。しかし、中には看取り介護加算をとっていない特養も存在します。看取り介護加算とは、亡くなった日から遡り、30日間を対象に看取り介護の加算をいただいています。これにはご家族の同意書、医師のターミナル診断や看取り介護計画書を立てる、などのいくつかの条件が必要になりますが、看取り介護を私たちの仕事として行う、という現れにもなります。つまり、看取り介護加算をとっていない施設は、看取り介護を仕事として前提にはしていない、ということになります。では、加算をとっていない施設では最期まで看てくれないのか、というと語弊があります。結果的にはそこで最期まで生活はできますが、施設の嘱託医の往診、看護、介護の環境など、加算をとる体制が整っていない、と解釈できます。

感想

私が研修にいったデンマークでは、高齢者の入居施設はすべて自宅扱いになっています。デンマークでも様々な住まいの形態があります。グループホームやケアハウスのような住宅タイプの住まいもありますが、すべて自宅として扱われています。だから、亡くなる場所としては、「施設死」ではなく「在宅死」としてカウントされていました。同じ北欧のスウェーデンから伝わったグループホームが在宅である、というカテゴリー分けには頷けます。そういった意味では、グループホームをモデルに作られた、ユニット型の特養についても自宅である、という捉え方も出来るのではないのでしょうか。

私は、入所者の方をご案内する際に、「このお部屋を自分の家として過ごしてください」と声をかけますが、実際には自分の家ではありませんし、自分自身が納得し、望んで入所する方はあまりいません。施設は自宅であるというのは、押し付けになっている、と捉えることも出来ます。

施設が自宅である、という認識ができるかどうかは、そこに住む利用者が管理され監視されなければならない存在であるか、という一人の人間としての尊厳や価値をどう考えるべきかが重要な視点だと思っています。例え認知症を患い判断能力もなく、帰宅願望があったとしても、私たちの考え方や接し方によっては、施設や自宅だといった器に関係なく、人間らしい生活が実現できるのではないかと考えています。



真宗大谷派 真宗寺
邨上(むらかみ) 了圓 住職

デイサービス 谷澤 高明

サッカー・ワールドカップ。開催国のブラジルを除き、世界最速で予選を突破した日本代表チーム、早々と敗退してしまった。期待外れだったのか、あまりにもだいそれた夢を見てしまったのか。マスコミも「前回のベスト16を上回るベスト8を狙う」とはやしたてた。関係者の発言も次第にエスカレートしていった。結局監督や選手、マスコミ、一般国民の側も甘さや身びいきが広がり惨めな結果に打ちのめされた。日本のみならずアジア地区から出場した4チームが全て1勝も出来ず、1次リーグで姿を消してしまった。また、アジア枠“4”の妥当性に対して議論が再発するかもしれない。ゲームの様子に加えて、取材者の手記が伝えられる。そのなかに「待たされる」感覚を捨てる!というのがあった。記者がスーパーヘミネラルウォーターを買いに入ったら週末のせいもあったのか、レジは長蛇の列。ところがレジの店員が買い物客と長々と話し込んでいる。ところが「早くしろ」などと言う人は誰もいない。皆静かに待っている。「待つ」には「待たされる」という思いが付きものだが、もしかするとそういう感覚がないのかもしれない。ブラジル人にとって「待つ」という感覚は自然と受動的なものとして身につけているようだ。これに反して私には「待つ」という文化はない。その時間は全て「待たされる」時間である。そのことが顕著なのは、車を運転していて、対向車のために道の端に避けたり、信号のない交差点で相手方に譲ったり。停車したりするとき、明らかに「待たされる」、「待ってあげる」瞬間である。したがってこちらの態度に対して無反応で通り過ぎる車に対しては結構腹が立つ。年を取るにしたがってこの傾向はだんだんと強くなってきているようだ。「待たされている」という感覚をなくし、じっくりその時を持てるようになれば、人生もっと楽になるのだろうか……(もう手遅れ?)

今月の仏教講話は真宗大谷派 真宗寺 邨上了圓ご住職に一年ぶりに来て頂いた。ご存知の方も多いとは思いますが真宗寺はNHKの大河ドラマ『軍師官兵衛』で登場した神吉城の西ノ丸跡地に建てられた寺院である。現在新たに本堂他が新築中であるが、ご住職のお話だと元の寺院は約400年前に移築されたものらしい。テレビドラマでは神吉城は信長、秀吉方に滅ぼされるのだが「歴史は勝者がつくるもの、語り継がれるもの」と言われるように、必ずしもみんなが納得できる話にはならない。真宗寺の近くにも神吉姓や小寺姓の方もいてドラマを苦々しく観ておられるとか。以前にも同じようなことを聞いたことがある。あの『忠臣蔵』で悪役の代表選手のように見られている『吉良上野介』もお国では名君とうたわれていた。

ご住職はいつもご講話の本題に入る前に「三帰依文：さんきえもん」を唱えられる。今日はこの三帰依文について資料をいただいて詳しくお話し下さった。全文は長くなるので最初と最後を意識付きで綴ることにする。

人身(にんじん)受け難し、いますでに受く。仏法聞き難し、いますでに聞く。この身今生において度(ど)せずんば、さらにいずれの生(しょう)においてか、この身を度せん。大衆(だいしゅう)もろともに、至心(ししん)に三宝(さんぼう)に帰依し奉るべし。

この世に人として身を受けることはむづかしいことですが、すでにいのちを得ました。仏法にめぐりあうことは難しいですが、いますでに出会うことができました。ここに生きている私が、今、救われなければ、いったいつになったら救われるというのでありましょようか。だからこそ、今、あらゆる人々と共に私の全てを尽(つ)くして、心から仏(ぶつ)・法(ぼう)・僧(そう)の三宝を尊(とうと)び、それを依(よ)りどころとして生きていきたいと願わずにはいられません。

無上甚深微妙(むじょうじんじんみみょう)の法は、百千万劫(ごう)にも、遭遇(あいあ)うこと難(かた)し。我いま見聞(けんもん)し、受持(じゅじ)することを得たり。願わくは如来の真実義(しんじつぎ)を解(げ)したてまつらん。

この上もなく奥深く尊い真実の法は、どれだけ長い時間をかけても出会うことは大変むづかしいものです。にもかかわらず、私は今、その真実の法に出会うことができました。その真実の法を依りどころとして生きる身となることができました。願わくば、如来さまの真実の教えの意味が本当にわかるように聞きつづけていくことができますようにと願います。

最後に三宝：仏法僧についてお話があった。「仏に帰依し奉る」の「仏」は、お釈迦さまを尊いみ仏と敬って信心し、心の拠り所とする。そうした思いを込めて「仏に帰依し奉る」と唱える。「法に帰依し奉る」の「法」というのは、お釈迦さまの説かれた真理・教えのこと。「僧に帰依し奉る」の「僧」というのは、日本では僧侶という一人のお坊さんを指すが、この僧は仏の教えを学び伝える人々(信心と教えを伴っている者)の集まりを指す、とのことであった。「また、来年お会いしたいものです、お元気で。ありがとうございました」と一礼されてご講話を終えられた。有難うございました。こちらこそよろしく願いいたします。



せいりょう園行事

6月9日(月)～11日(水)、13日(金) 野口南小学校交流会



ケアハウスにて



デイサービスにて

毎年恒例の小学校6年生との交流会を行いました。男女混合グループが相談し合って、お年寄りとの交流を一生懸命に行う姿を見て、微笑ましいです。そして穏やかな表情で見守っているお年寄り達の姿も印象的でした。小学生にとっては「未知との遭遇」であったのかもしれませんが。交流後、小学生の不安な表情が取れて、晴れやかな笑顔で先生や友人に感想を言い合う姿も印象的でした。



兵庫県版『地域サポート型特養』に認定されました。

特別養護老人ホームせいりょう園が、高齢者介護で培った介護・生活支援の機能を地域に広げる途を探り、地域包括ケアシステムの中核的な役割を担うべく、更なる地域貢献事業を目指します。

せいりょう園老人介護支援センターが、窓口として登録や相談を承ります。

お気軽にご連絡下さい。(担当：吉田・岩田・入江・武井)

TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

- 1 人生の最終章を生きる高齢者の、人生を締め括る営みを支えてきた看取り介護の実践課程を振り返り、地域に広げる途を探ります。看取りには、遺伝子では伝わらない思想を引継ぐ、貴重な精神的な営みが潜みます。
⇒『終活&看取り介護』の実践講習会を開きます。
- 2 特養では、苦しい時に自分でナースコールを押す人はごく稀で、園内を徘徊する認知症の人が偶然気付いて知らせてくれる場合が大半です。『地域見守り事業』では、日常生活で偶然の起こり易い関係性を創る途を探ります。
⇒既存の公的な緊急通報装置をご利用の場合には、一次連絡先3人からの二次的な連絡先としてご相談を承ります。
- 3 認知症の人は、自らの『感性・感覚・経験則』を頼りに不安と適度に折り合いを着け、持てる力のベストを尽くします。懸命に徘徊して自己実現を図ります。脳の器質が変化しても経験則がカバーして、『この子らを世の光に』と言われた同じ光を放っています。認知症の人の存在は、多様性と柔軟性と可能性に満ちた社会への「道しるべ」です。
⇒認知症の人が放つ光を『受止める力』を養成する講座を開きます。
⇒認知症になっても適度に『折り合える力』を養成する講座を開きます。
- 4 人生の最終章は、我が身一つを取り囲む環境を整える営みに終始します。楽しく暮らすには、炊事・洗濯・掃除など家事全般を適度にこなす生活力が決め手です。認知症になった時には、その生活力が生活意欲を支えて旺盛に工夫を重ね、不安と折り合う途を開きます。日常の生活行為と疎遠になり勝ちな男性は、家事に取り組む経験の積み重ねが重要です。
⇒男性の為の料理教室を開きます。

平成26年7月1日

【せいりょう園待機者状況 平成26年7月11日現在】

○入所判定済み者 375人(グループの内)

Iグループ…130名 IIグループ…143名 IIIグループ…102名

※このグループ分けは、県の「入所判定マニュアル」に基づき、緊急性を評価して分けています。

Iグループが最も緊急性の高いグループとなっています。

判定後、状況の変化がありましたら、ご連絡下さい。ご了承をお願いします。